

## 第4回境港市みんなでまちづくり推進会議録

日時：平成30年8月7日(火) 18:30～21:10

場所：保健相談センター 研修室

### 日程

1. 開 会
2. 境港市民活動推進補助金審査
3. 今期取組テーマ「U・Iターンを進めていくためのみんなのまちづくり（仮）」  
についての協議
4. 閉 会

### 出席者（敬称略）

（委員）

渡部敏樹 遠藤恵子 松本幸永 徳尾勝 松田真二  
渡邊冬樹 門脇京子 糸川諒 岩本和貴 足立勲

（事務局）

伊達憲太郎（総務部長） 沼倉加奈子（地域振興課長）  
片岡直人（地域振興課企画係長） 渡部大樹（地域振興課企画係主事）

（傍聴者）

なし

### 欠席者（敬称略）

松本信子 遠藤緑

### <開会>

（会長）

皆さん、こんばんは。お疲れのところ、お集まりいただき、ありがとうございます。  
これより平成30年度第4回目のみんなでまちづくり推進会議を開催いたします。

本日は、ご案内させていただいたように、先に市民活動推進補助金の審査をして、その後、午後8時ごろより、今期の取組テーマ「U・Iターンを進めていくためのみんなのまちづくり（仮）」について協議したいと思います。なお、本日は、遠藤緑委員・松本信子委員が欠席です。さて、早速ですが、市民活動推進補助金の審査に移りたいと思います。事務局より説明をお願いします。

(事務局)

本年度、3回目の募集をしましたところ、一般事業に2団体の申請がありました。審査員の皆様には、事前に書類審査をしていただいております、お忙しい中、ありがとうございます。

事前審査による申請団体の評価点は、お手元の資料のとおりとなりましたので、ご確認ください。審査表の審査基準を基に、申請書のみでの審査をしていただきましたので、この後行われるプレゼン後に得点修正があればそこで修正していただき、審議をしていただきます。

それでは、本日の審査会の進め方について説明いたします。

ヒアリング審査員3名と地域振興課長の計4名でヒアリング審査を行います。ヒアリング審査員3名については、あらかじめ事務局の方で、決めさせていただきました委員の方をお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

それでは、1団体目のヒアリング審査員を遠藤恵子さん、松田真二さん、岩本和貴さんに、2団体目を渡部敏樹さん、徳尾勝さん、糸川諒さんにそれぞれお願いしたいと思います。

続きまして、ヒアリング審査の仕方を説明いたします。

今回ヒアリング審査を行う団体は一般事業の2団体です。まず最初の3分間で申請団体から申請概要説明をしていただきます。その後、残りの17分間でヒアリング審査員の方に質疑をしていただきます。質疑にあたっては、このあと、委員の皆さまでどのような質問をするか、また誰がどの質問をするかという打ち合わせをする時間を設けたいと思います。ですので、質疑にあたっては、ご自身で考えられた質問のみならず、お手元の「審査表集計結果」にあります皆さまの意見を委員の代表として述べていただくようお願いいたします。なお、質疑の間、ヒアリング審査員以外の方には、傍聴をしていただきますようお願いいたします。

プレゼン終了後に皆様で審議していただきます。そこで、事前にご記入いただいた審査表の得点とプレゼンを参考にしながら採択・不採択の決定を行っていただきます。各事業とも30点満点で、6割の18点が採択の基準点となっております。

以上で説明は終わりますが、何かご質問等ございますでしょうか。無いようでしたら、審査内容の打ち合わせを行いたいと思います。

※委員質問なし

<打ち合わせ>

- ①ヒアリング審査員のうち、誰がどの質問をするか振り分け
- ②質問の意図を確認

<申請団体によるプレゼンテーションの開始>

◇1 団体目 平和のための戦争展境港市実行委員会

- ・申請事業 第5回平和のための戦争展
- ・事業内容 戦争遺品や写真等の展示とシンポジウムの開催により、平和な世の中の尊さを今一度市民とともに考え、語り継ぐ。

(委員)

内容的に、若年層の来場が重要になってくると思いますが、若年層の来場者の割合はどれくらいですか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

来場者に対して、年齢の確認を取っておりませんが、感覚としては少ないです。小さいお子さんを連れてくる方はいますが、若い方だけで来るというのは記憶にありません。小中学校全校にチラシを配布してもらうよう依頼はしておりますが、なかなか来てもらえておりません。

(委員)

シンポジウムを実施するとありますが、どのような内容になりますか。例えば、シンポジストがどのような方になるかなどを分かれば教えてください。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

まだ確定してはおりませんが、きちんと話せて、了解も取れている方が4名います。美保基地の話や玉栄丸の話、そのほかにも戦時下の話ができる方々がいらっしゃいます。

(委員)

シンポジウムの形式としてはどのような形ですか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

最終的に、やはり戦争はいけないという話にはなるとは思いますが、こちらから、こういう話をとはお願いしません。経験された方の生の話が聞ければと思っています。

(委員)

例えば、シンポジウムだとかの中で若い方との対話をするというのはありませんか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

まだ、細かいところまでは詰め切れておりません。とりあえずは、話を聞いて、録音もして後世に残していこうという風に考えています。

(委員)

事業計画の中の事業実施上の工夫という欄に「先の大戦の中で私たちの郷土ではどのような関わりがあったのか考えてみる」とありますが、具体的にはどう考えてみるのでしょうか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

「機会を作る」ということです。展示にしても年表にしても、実行委員会が特定の意図をもってどうこうという表現は一切ありません。見ていただいた方が自分で考えてもらえるよう機会を提供しようと努力するものです。

(委員)

何点か質問します。まず、会場がしおさい会館になって、狭くなります。企画の規模はどうなりますか。また、駐車場も少なくなるので、駐車場と交通手段はどうなりますか。

それから、文集を作るとのことですが、文集は誰に配りますか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

どうしても規模は縮小になります。ただこればかりは前の会場が使えないので、仕方がありません。駐車場については、近隣の企業から借りるようお願いしています。以前も同様に借りたことがあります。正式にOKが出ればチラシにも掲載したいと思います。

文集については、当日、会場に来られた方にお配りします。

(委員)

自己負担金について、お聞きしたいのですが、内訳はどうなっていますか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

自己負担金は分担金だけです。最初に、決まった額の分担金をもらってから、年度末に足らずまいを再度分担金でいただく形にしています。

(委員)

回数を重ねるごとに、来場者が減っています。事業の拡充という点が弱いという印象を受けます。毎回、小中学校にチラシを配っていますが、それで効果がないのなら、何か別の手段を考えるべきではないでしょうか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

その議論は実行委員会でもしておりまして、費用対効果が悪いということで、今年はチラシを大量に配布するのではなくて、昨年来られた方の連絡先が分かっておりますので、

そこに向かって、案内ハガキを出そうかと考えています。

(地域振興課長)

5回目ということですが、実行委員会のメンバーは増えているのでしょうか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

変わっていません。

(地域振興課長)

企画展をするということだけに限らず、実行委員会としての活動は活発になっていますか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

あまり変わっていないです。

(地域振興課長)

予算書の中に事業収入というのがありますが、これはどういうものでしょうか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

各団体がバザー等をして得た収益を実行委員会の赤字補填で寄付してもらっているものを事業収入として計上しています。

(地域振興課長)

シンポジウムにはディスカッションはないわけですね。一人一人が体験談を語られて、その後にディスカッションもするのでしょうか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

これは難しいところで、話される方はそれぞれ別のテーマで話をしますので、ディスカッションをしたいとは思っていますが、うまくいくかわかりません。

(地域振興課長)

ディスカッションもするとなると、会場の問題が出てくるかと思います。展示に300人来ることは出来ても、話を聞きに300人というのは会場のキャパシティからして不可能です。ディスカッションをしないのであれば、何時からは〇〇さん、という形に時間を組めば、延べ300人の来場も可能になります。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

そうですね。ただ、出ていただく方の年齢からして、一人10分程度で考えていますので、一つの時間の中で順番に語ってもらおうと思っています。

(地域振興課長)

最後に、今までと違うのは「文集を作る」ということだと思いますが、インク代などはそれにかかる費用ですね。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

手前で行うので2万ほどしかかかっていませんし、会場代もほとんどありません。講師を呼べば10万くらいかかりますけど、それもあります。

(地域振興課長)

ちなみに、名義後援は取っておられますか。

(平和のための戦争展境港市実行委員会)

市教委、日本海新聞、山陰中央新報、朝日新聞、毎日新聞、中海テレビ、日本海テレビ、山陰中央テレビ。昨年と一緒です。

～1団体目終了～

◇2団体目 カニカニマラソン実行委員会

- ・申請事業 第4回境港カニカニマラソン大会
- ・事業内容 マラソン大会の開催を通じた市民の健康増進と、基幹産業である水産物のPRを図ることを目的とし、開催する。

(委員)

第1回からボランティアさせていただいて、年々充実しているという印象を受けております。さて、水産物のPRということですが、どのような方法でPRされますか。

(カニカニマラソン実行委員会)

「カニカニマラソン」という名称です。あとは、参加賞である金券によるPRです。

(委員)

ポスターやチラシの配布先はどちらになりますか。

(カニカニマラソン実行委員会)

現時点で、市内小中学校、米子・松江のスポーツ用品店、県内の体育館に配布しており

ます。

(委員)

DMをするとのことですが、具体的にどこに案内されますか。

(カニカニマラソン実行委員会)

過去の大会参加者にチラシを送付します。

(委員)

前回参加者の中で、市内・市外はどのような割合になりますか。

(カニカニマラソン実行委員会)

市内の方が約40%、市外は細かく分類していませんが、米子や松江、鳥取といった山陰の方が多く、それ以外は数えるほどです。

(委員)

参加者の推移はどのような状況ですか。

(カニカニマラソン実行委員会)

枠を広げていることにより、微増です。部によっては、定員をオーバーしています。集計作業が目視による手作業なので、現状、これ以上広げることは難しい状況です。委員会の中では、将来は、ICチップの導入をという意見もあります。

(委員)

8kmが最長となっていますが、「マラソン」と謳っておりますので、たとえば、10kmだとか、長いコースがあっても良いと思いますが、いかがですか。

(カニカニマラソン実行委員会)

アンケートの中でも、10kmのコースがほしいという意見はありました。ただ、距離を伸ばすにあたりネックになるのが、どうやって交通規制の時間を短くするかというのがあります。その辺りも踏まえて、考えてみたいと思います。

(委員)

境港のメインイベントの一つになれるようなイベントだと思っています。さて、経費が昨年に比べ、7万円くらい減っているようですが、これはどういう理由でしょうか。

(カニカニマラソン実行委員会)

昨年は、コーンや誘導備品を購入する費用がありました。そういった備品の整備を今年度は予定しておりませんので、必要経費が下がった形です。

(委員)

規模を縮小されたということではないわけですね。わかりました。さきほど、市民参加の割合をお話されておりましたが、市民ランナーというのは結構多いのですね。

(カニカニマラソン実行委員会)

小学生が半分くらいです。

(委員)

それが良いと思います。いろんなイベントに小学生を呼びますが、なかなか集まりませんから。それで、運営経費がほとんど参加料と広告料ということで、集めるのが大変だと思いますが、今後とも、ハーフマラソンくらいまで大きくしてもらって、いろんなところとタイアップもしていただいて、カニカニマラソンが境港のメインイベントになるように願っております。

(委員)

水産物のPRが目的とのことですが、カニ以外にはどのようなものがあるのでしょうか。

(カニカニマラソン実行委員会)

特に、この魚種をおすすめするというのはありません。目玉として、カニがあるので、カニを名称にしているところです。

(委員)

今まで3回されてきた中で、今後の事業実施上の工夫として、どのようなことを考えておられますか。たとえば、観客により楽しんでもらうために、カニ汁のふるまいですとか、そのようなことはありますか。

(カニカニマラソン実行委員会)

実行委員会の中でも、カニ汁をふるまってはどうかという意見がありますが、金券で水産物のPRをするという手前、カニ汁を出すのはどうなのかという議論もあり、やっていません。そこで、第3回から豚汁のふるまいを用意しております。それと、アンケートの意見で、短いコースを走った参加者から「閉会式までの時間で何か楽しみがないか」という意見もありましたので、その時間の過ごし方について、議論しているところです。

(地域振興課長)



昨年の決算書を見させてもらいましたら、繰越金が25万ほどあります。実行委員会として、この繰越金をどのように考えているか教えてもらえますでしょうか。

(カニカニマラソン実行委員会)

広告料を多く集められたことによる繰越金です。基本的には、備品の整備で使っていきたいとは思っていますが、市の補助金がないと事業ができないということではいけませんので、自立した組織となっていくために、この会のベースとして持っておきたいお金です。

(地域振興課長)

大人は2,000円で1,000円の金券で、子どもは1,200円で1,000円の金券で、親子は2,400円で2,000円の金券ですが、親子の参加費はもっと高くても良いのかなと思います。

(カニカニマラソン実行委員会)

元々、子どもたちに楽しんでもらいたいという思いがあって、参加料も金券も500円でやっていましたが、最低限はもらおうということで増やした経緯があります。

(地域振興課長)

参加者とボランティアで、計60万円分程度の金券を発券することになるかと思いますが、直売センターからの支援やカニ汁は直売センターに出してもらおうとか、そういった協力依頼はしていますか。

(カニカニマラソン実行委員会)

駐車場を直売センターに借りるということで一度協力依頼をしました。結果として、場所が変わったので、利用はしなくなりました。現状、強いアプローチはしていません。

(地域振興課長)

水産物のPRということで、直売センターだけのことではないとは思いますが、ほかのところともWin-Winな関係ができればと思うのですが。

(カニカニマラソン実行委員会)

第3回のときに、その話も出ました。ただ、直売センターであれば、山陰旋網が仲介して集めてくれますが、市内の商店と話をしたとして、誰が回収を担当するのかという問題があるので、現状なかなか難しいところです。

(地域振興課長)

大会運営を重ねてきて、実行委員会の組織力は強くなってきているという実感はありますか。

(カニカニマラソン実行委員会)

組織力としてはまだまだです。大会運営にあたっては、陸上競技協会が全面的にバックアップしてくれていますが、事前の申込受付などは一人でやっており、厳しいです。

(地域振興課長)

キャパがあるので、これ以上、参加人数を増やすのは難しいという話がありましたが、今後は、実行委員会に参加される人、ボランティアに参加される人が増える、または、空いた時間を楽しめる工夫ができる、という形で、イベントが大きくなっていくことを望んでおります。

<プレゼンテーション終了>

(会長)

それでは審議に入りたいと思います。みなさんプレゼンをお聞きになりまして感じたことなどがあれば発言していただけたらと思います。(以下、非公開)

<審査会終了> (非公開、終了)

(会長)

それでは、再開します。今期の取組テーマ「U・Iターンを進めていくためのみんなのまちづくり(仮)」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

前回の推進会議で、島根大学准教授 毎熊浩一アドバイザーのご出席のもと、皆さまでワークショップをしていただきました。その結果、多くの意見が出ましたが、それらの意見を結ぶものとして、「移住」というのがテーマとしてあがりました。それで、今テーマの仮タイトルとしている「U・Iターンを進めていくためのみんなのまちづくり」というのは前回の最後の方で毎熊アドバイザーが言った言葉をそのまま引用させてもらっています。あくまで仮ですし、ちょっと長いので、テーマタイトルについても、また、みなさんと決めたいと思っています。

それで、前回、高校生とワークショップをする等の具体的な意見も出たところですが、今日のところは、境港市や他市町村における「移住」についての情報提供と、今後のスケジュール等について、お話したいと思います。よろしくをお願いします。

～説明～

(続けて、資料1～5まで説明)

事務局からの説明は以上になります。

(会長)

では、以上の説明について、質問や意見がある方はいますか。テーマタイトルやワークショップの形式など何でも良いので、いかがでしょうか。

(委員)

「みんなの」は付けないといけませんか。

(事務局)

そこは別に。前は「若い世代の参加」です。

(委員)

「Uターンをしたくなるまちづくり」ではどうでしょう。

(事務局)

高校生という相手だけであれば、Uターンだけでいいのですが、前回の話では、Iターンも含まれていました。

(委員)

境の子でなくても、いいわけですね。高校生でも。

(委員)

「みんなが住みたいまちづくり」はどうでしょう。

(委員)

U・Iターンというのは入れたほうがいいと思います。

(委員)

「U・Iターンをしたくなるまちづくり」でどうでしょうか。

(委員)

良いと思います。

(事務局)

それでは、今期の取組テーマは「U・Iターンをしたくなるまちづくり」でよろしいで

しょうか。

※委員異議なし

(会長)

では、次に、高校生をどう集めるかですね。

(委員)

これは学校に聞いてみないと、PTAとしても困ってしまいます。ただ、この辺りは、話し方一つです。

(委員)

するとしたら、土日ですか。

(事務局)

これも学校に確認してみないとわかりません。とりあえず、補助金の審査があるかもしれないので、11月初旬としています。境高は岩本委員に当たってもらうとして、総合はどうしましょう。

(委員)

総合のPTA会長は知り合いですし、校長は私の恩師です。それで、時間帯は平日の夜でも良いですか。

(事務局)

高校生が良ければ、それでも良いです。

(委員)

案外、そのほうが出やすいのかもしれない。

(委員)

部活とかいろいろありますからね。ですので、平日の夜で聞いてみて、ダメなら、土日で聞いてみて、土日に出られる子を集めてもらうという風にしたいと思います。

(事務局)

お世話になります。それで、先ほど、話にもありましたけど、市外の人がいても良いですよ。

(会長)

良いと思います。

(委員)

就職担当の先生なんかに話されると、「この子はどうだろう」という推薦があるかもしれません。

(委員)

校長先生がアイデアを持った人なので、まずは校長先生に話してみます。

(会長)

テーマについて、みなさん何か案はありますか。

(事務局)

ここについては、また、やり取りをする中で、皆さんから意見をもらってもよいかもしれません。

(委員)

良いテーマが書いてあります。高校生の意見を聞いてみたいです。

(事務局)

テーマのほかに、どのような形式で話し合うかというのもあります。

(委員)

班ごとにテーマを決めて、委員は動かずに、高校生だけが動いていくという形はどうでしょうか。そうすれば、委員はすべての高校生から意見が聞けて、高校生はすべてのテーマについて話すことができます。それから、委員はどう高校生を導いていこうかというのを事前に考えることができ、誘導係に徹することができます。

(委員)

時間でテーマは変えないということですね。高校生が移動するだけで。

(委員)

そうです。それで、2回目からは、高校生は前に話し合われた紙を見て、そこから違う視点で話を発展させることもできます。

(事務局)

テーマや形式について、どういうものにすれば良いのか、書面にはなるとは思いますけど、

やり取りをして、皆さんから意見を聞いていきたいと思います。

(委員)

今、あげてもらっているテーマも良いと思いますけどね。

(会長)

市外の子も呼ぶとなれば、少し変えたほうが良さそうですが。

さて、よろしいでしょうかね。それでは、以上をもちまして、第4回のみんなでまちづくり推進会議を終了します。

委員の皆様、長時間にわたってご協議いただき、ありがとうございました。